

## < 7月第一例会議事録 >

書記 杉本隆人



日時：2016年7月21日（木）

19：00～20：40

場所：西神戸YMCA

出席メン：阿部、佐伯、杉本、宗利、館、達、田辺、丹家、中村、西田、野呂、檜木、藤井

メネット：阿部、佐伯、杉本、宗利、コメント：杉本

強調月間：(活動) EMC-MC、

(ステートメント)MCは新会員増強と意識高揚を図ること。楽しく充実した例会運営を計り、メンバー間の親睦を深め、魅力あるクラブ作りを目指しましょう！

### 1. 開会式

- (1) 開会点鐘：藤井会長により開会及び挨拶
- (2) ワイズソング斉唱：全員で唱和した。
- (3) 今月の聖書朗読：藤井会長朗読
- (4) ゲスト・ビジター紹介：相浦 和生 牧師（元主恩教会牧師、神戸YMCA 役職人事委員）
- (5) 7月誕生者お祝い：達 直樹(7/1)、中村 剛(7/27)

### 2. ゲストスピーチ：相浦 和生氏の講演サマリー

「ヨハネによる福音書17章21節」を通してYMCAとワイズメンズクラブについて



カトリックとプロテスタントの違いとは、聖書は同じものですが、一番の違いは、聖餐式をするか、しないかである。

YMCAの紋章にもなっている、ヨハネによる福音書17:21の意味とは、一つというのは、Yの紋章の中にある3つの教条を一つにすること。Spirit Mind Body キーワードはひとつですが、一つでない。人間が仲良しグループ作るだけではない。

く、一人一人が神様とひとつになることによって、YMCAの働きが祝福されたことになる。一つとは、仲良しになること。聖書ということは、その幅を広げて解釈して下さい。

クリスチャンとは、聖書を読むことを義務化されていること。読まない人もいるが、罰則規定がないので、バカなクリスチャンもいっぱいいる。

牧師とは、聖書の言葉を語ることを許される人のこと。説教することが許される。イエスとの会話が祈りである。決別の説教時にイエス様がお祈りされた。

「父よ、時が来ました。あなたがあなたに……三位一体：父なる神、子なるイエス・キリスト、聖霊なる神

### 3. 六甲部部长 長井慎吾氏の指針

主題：楽しい交流と、やりがいのある奉仕活動で更なるクラブ活性化を図ろう。

自己紹介：西宮クラブ、商船大学在学中は寮にいて、西宮YMCAのリーダーであった。

他のクラブを見て回る。神戸西(実際4～5名)、三田(実際4～5名)

六甲部会は11月12日(土)ラッセルホールで開催予定

### 4. 報告事項

- (1)「第19回チャリティーラン協賛委員会」7/19(火)報告
- (2) 六甲部第1回評議会(3分の1以上の参加で成立)

日時：7/30(土曜)15：00～17：30

場所：ラッセホール、懇親会会費：5000円

参加者：佐伯、杉本、田辺、中村、野呂、藤井

- (3) 六甲部パンフレット作成について

例会の写真が2枚必要ですが。

- (4) EMC集計の担当者：野呂 EMC主査兼務

### 5. 協議事項

- (1) 2015～2016年会計報告：次回に延期
- (2) 2016～2017年予算：次回に延期

### 6. 8～9月行事計画

<8月>

- (1) 8/4(木) 第二(事務)例会
- (2) 8/18(木) 第一例会 「美味しい日本茶の入れ方」

<9月>

- (1) 9/1(木) 第二(事務)例会

- (2) 9/15(木) 第一例会 (スウェーデン・トレッキングの旅)

## 7. YMCA 報告事項

- (1) ワイワイまつり (10/22) : Y'S もちつき担当  
(2) 神戸市からの助成金を得る事業 : 学習支援をスタートさせる。児童館 (120 名くらいいる中で 1・5 がシングルマザー) でやる 15 分から 20  
(3) 8 月 6 日 夏祭り Y は参加予定なし  
(4) 熊本地震報告会 7 月 26 日

## < 8 月第二(事務)例会議事録 >

会長 藤井久子



日時 : 2016 年 8 月 4 日 (木曜)  
19:00~21:00

場所 : 西神戸YMCA

出席者 : 阿部、佐伯、舘、達、田辺、丹家、中村、西田、野呂、檜木、藤井、メネット : 阿部、

### 1. 報告事項

- (1) 第 1 回評議会報告 7 月 30 日 (土) 於 ラッセホール  
参加者 : 佐伯、杉本、田辺 (評議会のみ)、中村、野呂、藤井  
・次期六甲部方針、次期西日本区体制について
- (2) 第 19 回チャリティーラン協賛委員会報告 7 月 19 日 (神戸 YMCA カレッジ)  
我がクラブ欠席 (ワイズでの参加は、神戸、宝塚、神戸ポートのみ)  
・協賛目標 : 565,000 円、  
・次回委員会は 9 月 6 日になります。  
出席予定 : 藤井
- (3) 宝塚クラブ納涼例会 8 月 16 日 (火)  
於 : 宝塚ホテル
- (4) 大山寺児童館における「子どもの居場所クラブ」について 水野宏明氏 (神戸 YMCA)  
○子どもの貧困 日本でも 6 人に 1 人、学習支援、食事支援 (子ども食堂)  
○児童館における実態 (17:00~18:00、お迎えに来れる児童に対して)  
・大学生、高校生による本児童館に来ている片親家庭の児童 (現在小学生) に学習支援  
・学習支援は子どもの意欲向上になる。子どものつ

ながりができる。大人のモデル

### 2. 協議事項

- (1) 2016~17 年クラブ予算は次回に延期  
(2) 8 月第 1 例会は 西田勉氏による「生きにくい世の中を生き抜く若者たち」  
(3) 六甲部部会における各クラブ出し物について (継続審議)  
(4) 次期クラブ・六甲部役員体制について (継続審議)

### 3. その他報告事項等

- (1) 学園夏祭り 8 月 6 日 (土) 前年度より縮小、YMCA からはキッズダンスが参加するのみ  
(2) グループメール : 佐伯さん、藤井が前日送れなかったため杉本さんに原因確認と管理者を阪本氏から杉本氏に交代することを依頼  
(3) 台湾・高雄ポートのトム張さんよりメールあり、奥さんと長男さんも会員になられたとのこと。

## < 大自然と歴史の交響曲スロヴェニア・クロアチアハイライト9 (1/? ) >

丹家元陽 メン



ここ数年地中海を反時計回りに旅しているようになっている。2013 年シチリア、2014 年トルコ、そして 2015 年に妻が選んだのがトルコを北上しギリシャはエーゲ海クルージングの時の為にパスしてアドリア海を挟んでイタリアの東に位置する所。「クオリティー大自然と歴史の交響曲スロヴェニア・クロアチアハイライト9」。

2015 年 8 月 15 日 (土)

AM4:30 目が覚める。朝食を摂り、再度スーツケースを確認。戸締り確かめセコムして AM7:00 出発。AM8:15 関空着。さすがにお盆期間中で駐車場も一杯。久し振りに活気ある関空に、これからの旅への期待が高まる。

今回のフィンエアー AY0078 は南の空に向けて AM11:08take off. アツという間に四国、瀬戸内海、中国地方を抜けて日本海から北朝鮮の北をかすめ、モンゴル上空からシベリアへ。

水平飛行に移るとチキンガーリック風味のおつまみとグラスに並々のウェルカムシャンパン (NICOLAS FEUILLATTE BRUT)。ランチが始まり前菜は、タイムを添えたサラダと、かぼちゃのクリームスープとチャパタ。白ワインは VILLA MARIA。ソービニオンブランを使い

フルーティでメロンとハーブの香りがするという。メインはトマト風味のサワークリームソースのリングイネパスタ。モツアレラとトマト、空豆とパルメザンチーズをかけて。2杯目の白ワインはトロピカルフルーツとふくよかなアロマの香りのするVOLCAIA SAUVIGNON。デザートはホワイトチェダーチーズとデンマーク産ブリー。

昼食後は満腹感と日本から解放された喜びに、快い酔いにまかせて約5時間熟睡。目が覚めるとフィンランドの首都ヘルシンキまで後2時間程。しばらくすると日本時間による夕食のお弁当。甘塩鮭、肉ダンゴ、カボチャ、金平、散らし寿司にみそ汁。これもおいしかった。しかしここではまだ PM2:35。針葉樹林の中に無数の湖が点在するヘルシンキ着。約9時間半のフライト。そして時差6時間。ここで EU 入国の為の厳しいチェック。ベルトもはずし、ヘアトニック、アフターシェーブローション等の液体類はジッパー付きのビニール袋に入れ、場合には靴も脱ぎパスポートの IC タグの確認、更にこの春から始まったのがメガネをはずした顔写真の撮影。これを経験すると日本のセキュリティの甘さが気になった次第。無事入国。

PM4:50 ヘルシンキを離陸して、Slovenia の首都 Ljubljano のヨジェ・プチニク国際空港着。PM6:30。時差1時間。24℃で涼しい。首都の国際空港といっても滑走路一本。ターンテーブル2つ。周囲は森と畑に囲まれ、日本の地方空港の方が大きい位。スーツケースも出てきてバスで約30分。リュブリアナ市内のホテル着。

PM8:00。今夜の夕食はないのでホテル近くのガソリンスタンド併設のコンビニで買ったビール 500ml 1.8€で無事の到着を祝い乾杯し、閑空で仕入れたオニギリにかぶりつく。シャワー後、バタンキュー。長い長い1日の終わり。

2015年8月16日(日)

時差ボケでウツラウツラしながらも AM5:30 頃起床。外を見るとまだ暗い。そして、雨が降っているではないか。気温 20℃。今日はあの美しいブレッド湖に行くはず。気を取り直してまずはAM6:30朝食。スロヴェニア初の食事。オレンジジュース、アップルジュース、数種類のハム、チーズ、スクランブルエッグ、ラタトゥーユ(これから、これが病み付きになる)、野菜もたっぷり、そしてパンも美味。大満足の朝食後、AM8:00 ホテル出発。

最初の観光地、ブレッド湖まで 50km、約1時間余のドライブ。ここで気が付いたのが信号。前回のトルコと同じく青→黄→赤→黄→青。バスに乗る事約30分で雨が上

り、少し薄日が差してきた。これはラッキー。

ブレッド湖到着。本格的な日差しでないで湖面の色は濃いエメラルド色。標高500mにあり、周囲約6kmの氷河湖「アルプスの瞳」と言われ湖畔には瀟洒なホテルが立ち並び古くからのリゾート地を実感。まずは岸からボートに乗り込む。定員は約20名。今回のツアー20名と添乗員さん、現地ガイドさんで丁度一杯。これを1人の船頭さん(この船頭さんには免許が要り、ほぼ代々受け継がれているという)が船尾で2本のオールを巧みに使い前進させる。滑らかな水面をミズスマシのようにツート実に静かに進む。岸から約600m乗る事約10数分で湖中央にあるブレッド島到着。

船着き場からすぐの99段の石段を登ると聖母被昇天教会に着く。最初は8~9世紀に建てられ17世紀に現在の白い塔をもつバロック様式の教会に改築されたという。小さな教会だが中央の聖母マリア像が美しい。

祭壇前には天井から長いロープが垂れ下がっている。1534年に建てられた屋根の上の鐘楼に継ぎついで鐘を鳴らすと願いがかなうと伝えられている。その昔、ある若い女性が城から小さな鐘を湖に投げ入れ、亡くなった最愛の夫が蘇る事を願ったがかなわず、その後尼僧となり修道院で一生を終えた事に感動した、時のローマ教皇が人々への奇跡の願いを永遠に響かせる為に寄贈したという。このロープを力一杯下に引っ張るとしばらくして空の上からえもいわれぬ音色が降ってきた。しかし、音色に聴き惚れてしまい最も肝心の願い事をするのを忘れていて残念！残念！

そしてこの教会はスロヴェニアの女性たちにとって結婚式を挙げるのに最も人気の場所。結婚が決まると男性は筋トレ、女性はダイエットに励むらしい。なぜならば、ボートでこの島に着くと花婿は花嫁を「お姫様だっこ」で、この99段の石段の上まで運ばないといけない。もし途中でギブアップすると、介添えに付いている屈強な男と一夜を共にしないといけないとの事。

ブレッド島一周は7~8分。湖面のすぐそばの道を歩く。日が射すとパールブルーに輝き、小さな魚達が群れ泳ぎ、道の両側には直径2~3cm位の可憐な花が咲き乱れる。聞く所によると野性のシクラメンだそうだ。

そして次は湖面から約100mの高さの断崖の上に建つブレッド城へ。駐車場から石畳の急な坂を登り、城門をくぐると眼下にブレッド湖が広がる。この時、薄曇りだった空がパーっと明るくなり湖面がエメラルドグリーンに変色し、ワーッと皆の大歓声。ブレッド湖から視線を上げるとそこにはユリアンアルプスが連なり、その向うはオース

トリアになるという。このワインセラーでワイン樽から自分でボトルに入れコルクで栓をして蠟で封印する店があったが、まだ旅の初日に重い荷物になるとあきらめたのが今となっては悔やまれる。

しかし、博物館の一角で中世から続く印刷所、そうです、グーテンベルクが発明したのと同じ機械を使ってブレット島の印刷にチャレンジ。まずは木に彫った下絵にインクを塗り、上にパピルスの紙を置き、機械に乗せて、モット！モット！の声に全体重を掛けて、梶を左に押して出来上がり。「nice job!」と誉められ記念品となった。4€。

ブレット城を降り、湖畔のレストランで昼食。まずはunion ビールが明るい日差しの中で喉にすべり込む。前菜はマンゴルド(モロヘイアのような感じ)のクリームスープ。メインは鱈のグリルにトマト、ナス、ピーマン添えて美味。デザートはグルマダ(カスタードクリーム)をナッツ、チョコレートでくるみ、少し甘目だが完食。

満腹でバスに乗り南下する事 110km、約2時間半の予定でポストイナへ。道の両側には雨に恵まれた国にたがわず緑豊かな森と畑が広がる。小麦、トウモロコシ、レタス、キャベツの畑が連なり、流石農業国はかくありなんの感じ。……目が覚めるとバケツをひっくり返したような雨と雷の中、PM2:30 ポストイナ鍾乳洞着。

気温 18℃。入口は観光客の国別に並ぶようになっていて日本語の案内が聞けるイヤホンを耳に付ける。断崖の下に開いた穴に入ると、そこは長いプラットホーム。横一列に2人坐れる椅子が 11 列付いて一両。これが5両連結され、先頭の電気機関車が引っ張るトロッコ列車だ。ディズニーランドの冒険の国の探検に出発する感じで胸が高まる。

最初はゆっくりだったが次第に速くなった。屋根がなく、すぐ上がトンネルの天井で頭を打ちそうに感じる。トロッコのすぐ横にも岩が迫ってくるので、首を縮めたり頭を内側に傾けたりと、後から見ていると滑稽そのもの。でも背の低い私でも思わず首をすくめていた。トンネル内の気温は年間を通して約 10℃。スピードが上がるにつれて寒くなり、薄手のセーターの上にレインコートを着ても少し寒い位。

最初の 100mの狭いトンネルを抜けると突如広い空間に出た。そこは真に鍾乳洞の世界。ワーッと歓声が洞内に響く。大小の鍾乳石が上から垂れたり、下から生えて石筍となり、これが上下くっついて巨大な石柱となっているのが、あちらにもこちらにも。トロッコに乗る事 2km 約 10 分。下車した所は巨大な空間。あちらこちらに明か

りがあるものの、薄暗くてその大きさがよく解らない。縦、横は 120m以上、天井は約 50mはあるのでしょ。一步一步階段を登りながら周りを見回すが、無数の鍾乳石の林立に圧倒されて声も出ない。日本の場合、1つ1つにそれらしき名前が付いているが、この数ではやってられないのが解る。ゴシックの石柱、ピサニ、ロウ、小人、フクロウ、雄鶏、パレット、チューリップ、ヤシの木、etc.と、特徴のある物には名前が付いている。重さで倒れた石柱の上に、更に新たな石筍が出来ている。坂を登ったり下ったり細い道を抜けると広い所に出たり、天井から細いスパゲッティが無数に垂れ下がったように見える鍾乳石(中は空洞)の部屋はスパゲッティホール。又、地層の色により赤茶色の石柱に変化したりする。

第一次世界大戦で捕虜となったロシア兵によって造られた長さ 20m 位のロシア橋を渡ると、又、次の世界が広がっている。茶色のカーテンが翻っているような鍾乳石は、光を通す程薄くて美しい。ノアの箱舟あり、スカイスクレーパーと言われるものは洞内で最も大きな石筍の集まりで、中でも一番大きなものは高さ 16m にもなる。中でも一番美しいのが、その名もブリリアントといい高さ約 5m 位の真白な石筍でポストイナのダイヤモンドとも言われる。

もう、その広さ、巨大さ、美しさに圧倒されて表現の仕方が解らなくなったので、皆さんにはこの現地に来て実感して頂けなかと諦めます。

約 1.8km いつの間にか1時間半も歩いたゴール地点にある水槽に居るのが、ホライモリ。長さ約 15cm 位で小さな四足の付いた白い鰻のような形。ヨーロッパで唯一洞窟内で生活している脊椎動物との事。目は退化し、1年位何も食べなくても生きていけるとい。そして、最後に着いたのが 1000 人以上収容でき、年数回コンサートが開かれるコンサートホール。中央に立ち手をたたくと、音響の素晴らしさが実感できた。ここから帰りのトロッコに乗り、約 10 分で出口へ。

今まで秋吉台の秋芳洞に感激していたが、その数 10 倍の規模に度肝を抜かれた。スロヴェニアの国土の 43%がカルスト台地で、その南の方にあるピウカ盆地を流れるピウカ河が数 10 万年の時を経て造り出したのが、このポストイナ鍾乳洞。全地下道を合わせると約 20km。13 世紀にはすでに観光客が入っていたとの事。ちなみに鍾乳石が1mm 成長するのに 10~30 年かかると言う。人間の一生で3mm~10mm。これが 10 数 m になるのに……年？計算できない！本当に気の遠くなる時間に打ちのめされて外に出た。雨は小降りになっている。こ

こからバスで約1時間、ホテル着。今夜の夕食はホテルのレストランで。いつもの通り union ビールが一気に喉に入る快感。前菜は野菜のグリル、ズッキーニ、ナス、パプリカのオリーブ焼にレタス、ルッコラ添え。この国は野菜がたくさん出ておいしいのがいい。メインはローストポー

クにラタトゥーユ、そしてメリンジ(クロアチアパスタ)が付く。これを白ワインで頂く。デザートはプリンで完食。大興奮の1日が終り、熟睡。(次号に続く)

## < 今月の聖句 >

平和を実現する人々は、幸いである。

平和を実現する人々は、幸いである。

その人たちは神の子と呼ばれる。

(マタイ 5-9)

「戦争は人間の仕業です」

これは、ヨハネ・パウロ二世教皇が 1980 年、歴代教皇として初めて訪日した時の広島でのメッセージの冒頭の言葉です。

戦争は、人間の欲望、憎悪、嫉妬、恨み、復讐心などから生まれます。

その戦争と対比される平和も、人間の業。わたくしたちの努力なくしては生まれません。

社会の平和は身近な平和から生まれます。

例えば家族とのなごやかなひととき、友人と内ととけた語り合い、あるいはそのもとになる自分自身の心の平安です。

そんな平和を実現するために、わたくしたちができることはなんでしょう。

平和のために戦うこと、かもしれません。

ただし、それは敵との戦いではなく、自分との戦いです。

あなたの心の平和を乱すものは、いったいなんでしょう。

もしもだれかを憎んでいるのなら、心の平和は訪れません。

もしもだれかに恨みを抱いたままであれば、心の平安はありません。

イエスは言われました。

「敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にしてください。悪口を言うものに祝福を祈り、あなたがたを侮辱する者のために祈りなさい」(ルカ 6-27~28)

「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。あなた方の天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである」

(マタイ 5-44~45)

敵を愛するなんてとてもできないと諦めないでください。

イエスが説かれる愛は、感情的な愛(ギリシア語で「フィリア」)ではなく、理性的な愛(ギリシア語で「アガペー」)なのです。

つまり感情的には相手を好きになれなくても、その人に親切にしたり、その人のために祈ったりすることでもいいのです。

実際は、とても難しい自分との戦いですが……。

~教養として知っておきたい聖書の名句(中井俊巳、グラフ社)より~